



歯周病を痛みなしで改善！ 今注目の最新治療は原因菌を撃退 できる歯磨き剤と内服薬が主流

近藤歯科
クリニック院長
近藤哲夫

植物由来の歯磨き剤で 安全に歯周病を治す

歯周病は、歯周病菌とカンジダ菌によって起こり、治りにくく、そのうえ高血圧や高血糖、心筋梗塞など全身の疾患まで引き起こすので、大変厄介な病気であるといえます。

従来の一般的な歯周病治療では、まず歯ぐきを切開し、先がとがった器具で菌の塊である歯石を取り除くなどの処置をしていました。確かに効果はあるのですが、歯ぐきを傷つけてしまうので数日

痛むなど短所も。それに、口の中に歯周病菌がたくさんいる状態でききなり処置を行うと、傷の中に歯周病菌が侵入し、血流に乗って全身に回ってしまいます。

特に歯周病菌は大きいので、血液中のさまざまな物質とくっつき血管を詰まらせることもあり、場合によっては脳梗塞や心筋梗塞をも引き起こしかねません。高齢者は特に危険でしょう。

そして何か安全でよい歯周病の治療法はないものか、と悩み探しているときに私が出合ったのが「歯磨き剤」と「内服薬」での歯

歯ぐきを切開する従来の治療に比べて患者さんの負担が少ない点も魅力的です。

顕微鏡で口の中の菌を見て、歯周病を自覚する

歯磨き剤と内服薬を使った歯周病治療の手順を紹介しましょう。まず、治療にきた患者さんの話をよく聞きます。その中で食事や生活習慣を探り、その人に合った治療方針を考えます。

その後、位相差顕微鏡で口の中の菌の様子を見ます。この顕微鏡はリアルタイムで菌の様子を動画で見ることができ、患者さんを待たせません。それに、口の中でたくさん菌が動いているのを目の当たりにするので、「きちんと歯周病を治さなくてはいけない」と感じてくれるようです。患者さん

近藤先生のプロフィール

国際歯周病内科学研究会 会員。1987年、日本歯科大学歯学部卒業。96年、近藤歯科クリニック開業。2001年～10年、立川市歯科医師会役員。08年より小学校歯科校医を務めるなど、最新の技術を取り入れつつ、地域に根ざした歯科治療を行っている

周病治療でした。

すべて天然植物成分でできていて、カンジダ菌に効果のある歯磨き剤を、まず使用します。重度の場合は内服薬もあわせて飲むことで、体の内外から歯周病を治療していきます。痛みが全くないので、

のやる気は治療の結果を大きく左右します。細菌が多く、重度の歯周病であると判断した場合は稀に歯磨き剤の他に内服薬も出しますが、大抵の患者さんは歯磨き剤のみで改善します。1〜2週間歯磨き剤を歯ぐきに塗って除菌を続けてもらい、その後に再び診察。それで歯ぐきの様子を見ながら、歯石を取ったり歯周ポケットの中をきれいにしていきます。これが今、一番安全で新しい歯周病治療です。

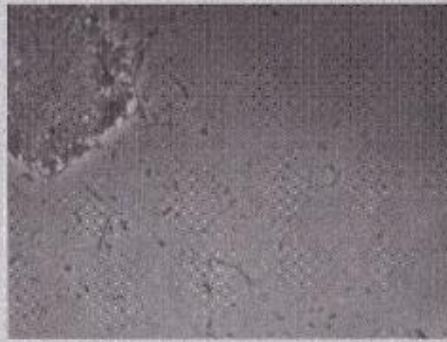


位相差顕微鏡（国際歯周病内科学研究会代表理事の生田南先生がオリンパス社と共同開発）



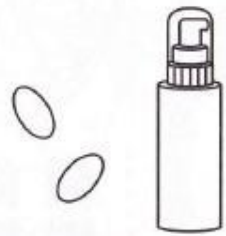
歯周病の人の口の中

立川歯周病研究所HPより <http://www.shisyubyokenkyujo.com/>



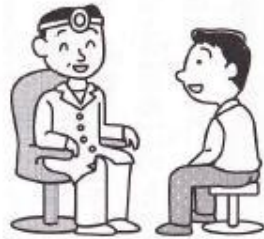
歯周病ではない人の口の中

歯磨き剤や内服薬を使う歯周病治療の流れ



3

症状が軽ければ歯磨き剤を出し、細菌が多い場合や重度の歯周病であるときには飲み薬も一緒に出して、体の内外から治療を行うこともある



1

患者さんの話を聞き、生活のスタイルや健康状態などを把握、その人に合った治療方針を立てる



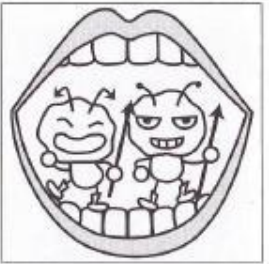
4

1〜2週間後に再び口の中の菌の様子を見て、状態がよければ歯石を取り除くなど従来の歯周病治療を始める



2

位相差顕微鏡で口の中の菌の様子を見る



一度治しても家族が歯周病なら
再びかかるかも。根本的な治療には
家族の協力と生活の見直しが必要

近藤歯科
クリニック院長
近藤哲夫

歯周病は生活習慣病？ 自分の生活の弱点を知ろう

歯周病は、感染症と生活習慣病という2つの側面を持っています。

まず、歯周病は菌によって起こるので、人から人へ感染します。世界で最も感染者数の多い感染症として、ギネスブックにまで載っているのです。

それほどの感染力を持った菌です。すから、もしせっかくな歯周病を治したとしても、家族や恋人が歯周病だったならまたすぐにかかってし

まう恐れがあります。重度の歯周病だと判断されたときは家族も同様にかかっている可能性が高いので、一緒に治療したほうがよいでしょう。

カビに対して効果のある植物由来の歯磨き剤と内服薬での治療は、歯周病を感染症として考え、歯周病菌を殺菌して治すという方法です。

また、食生活や喫煙なども歯周病に影響します。やわらかく、あまりかまなくてもよい食べ物ばかり食べていると、だ液の量が減るので、歯周病菌への抵抗力が弱ま

歯周内科治療による1週間後の変化

朝起きたときのネバつき		有効率85%
著明に改善55%	改善30%	
口臭		有効率90%
著明に改善55%	改善35%	
歯ぐきからの出血		有効率85%
著明に改善60%	改善25%	
歯ぐきからの膿		有効率88%
著明に改善76%	改善12%	

ってしまいます。

喫煙は歯ぐきへの血流を減らす原因になるので、やはりよくありません。睡眠不足だと免疫力も落ちますし、かみ合わせも歯周病に影響があります。これらが生活習慣病としての側面です。

今までは、誰に対しても歯周病の治療法は一緒でした。年齢や性別、生活習慣が全く違うにもかかわらずです。しかし、同じ歯周病でも環境や生活習慣が違えば、症状や進行のスピードなどは人によって違いますし、治療内容だって違ってくるはず。

歯周病の治療を受けつつ、何が原因かを考えて、生活習慣を見直すことが一番効果的に歯周病を改善できる方法であり、みなさんにぜひ実践してほしいと私は考えています。